

ブルゴーニュ大学への協定留学 月例報告書（12月分）

留学先大学：ブルゴーニュ大学

氏名：奥山海

はじめに

留学が始まってから2ヶ月が経ちました。フランスでの生活にも、慣れてきました。

生活について

大学の授業には、ある程度慣れてきましたが、食事に関しては、まだまだ不慣れなことも多々あります。

現在、私が住んでいる国際学生寮には、それぞれのフロワーに共同のキッチンが設置されており、そこが空いていれば、いつでも使用可能なのですが、きれいでないことがしばしばあります。しかし、電子レンジはきれいなことが多いため、健康にはあまり良くないと思いつつも、電子レンジで簡単に作ることができるものを食べています。先月、体調を崩してしまったために、健康には十分、留意しながら、今後の食生活を模索していきたいと思っています。



共同キッチンの電子レンジ

旅行について - トゥール編



シュノンソー城

11月5日には、トゥールへ旅行に行きました。ブルゴーニュ大学に留学する前、トゥールにあるトゥレーヌ学院という学校で、オンライン授業を受けていたこともあり、留学した際は、トゥールに行きたいという思いがありました。

トゥールは、パリからTGV（フランスの高速鉄道）で2時間ほどにある都市で、ロワール川が流れる落ち着いたところです。市街の周りには、多くの古城があり、私は4つの城、シュノンソー城、アンボワーズ城、シャンボール城、ブロワ城を見てまわりました。歴史的な建物を目の前にして、まるでその時代にいたかのような気分になりました。フランスの歴史を肌で感じる事ができて、より具体的に歴史をイメージすることができるようになりました。

今月の失敗 - 遊園地編

11月の間、ディジョンには、移動式遊園地が来ていました。普段、駐車場として使われている空き地に、たくさんのアトラクションや、屋台や夜店などが出現しました。どれも、日本のものと比べると規模が大きく、迫力がありました。

そして、ある一つのアトラクションに、私は乗ってしまったのです。それは、タコのように中心から、複数のアームが飛び出し、その先に人



例のアトラクション

が乗り込み、ぐるぐると回転するというアトラクションでした。正直、このアトラクションに乗る前は、完全に侮っていました。しかし、それがよくなかったのか、それが終わった時には、想像以上の回転数と速さ、さらに時間の長さ、気分が悪くなっていました。それは、フランスに来て初めての体験で、もう二度と、このアトラクションには乗らないと固く誓ったのでした。

おわりに

2ヶ月間、フランスで過ごしてみて、早くもフランスの人々と日本人の人々との違いを感じ始めました。もちろん、個人それぞれによって違うこともあると思いますが、全体的に私が感じたこととして、フランスは「人間味」ある国だと思いました。ここにおける「人間味」というのは、自分の人生を最優先に考えているということです。例えば、フランスでは、ストライキが日常茶飯事に起きますし、事務的な手続きにおいても予想以上に時間がかかります。それに比べて、日本は「機械的」ともでもいいでしょうか、何事も時間通りで、時には自分の時間さえ犠牲にしてしまうことも散見されます。

私は、あまりにも「機械的」な生活に慣れ親しんでしまったために、「人間味」を感じると、時にストレスに感じてしまうことがあります。しかし、どちらが良い悪いのではなく、文化的な違いとしてそれらを受け入れ、「朱」に交わり、「赤く」なることが、留学において、重要ではないかと思いました。